

大学生における親との関係と職業未決定 および就活不安との関連

鹿 内 啓 子

大学生における親との関係と職業未決定 および就活不安との関連

鹿内啓子

目次

- I. 問題・目的
- II. 方法
- III. 結果
- IV. 考察

I 問題・目的

近年、若者の職業意識の未発達が指摘されているが、その要因の一つとして、社会の変化を背景とした家族関係の変容があるだろう。心理的にも経済的にも独立すべき子どもをいつまでも依存させている親が増加し、子どもが親や周りの大人が働く姿を見る機会がなくなり、お手伝いなど家庭内で子どもが仕事や役割を果たす機会が減少し、親子間、とくに父子間のコミュニケーションが希薄になってきた。以前の社会の仕組みの中では殊更キャリア教育がなされなくても、ごく自然に労働の経験が蓄えられ、仕事に就くことへの構えが形成されてきたが、今は仕事についての経験や直接的また間接的な情報伝達がないまま、青年期になって職業決定に直面することになる。このように考えると、今の若者の職業意識の発達に対して、親から子に伝わるものは何だろうか。

これまで青年の職業意識の発達に対する親の要因の影響を扱った研究がなされてきている。田中・小川(1985)、北原・佐々木・岡部(2005)では専門職について、親から子ど

もへの職業の継承性が強いことが示されている。高井(2001)は、親の職業を受け継ぎたいと思う者ほど親の価値観をはっきり言われて受け継ぐ「直接継承」の程度が高いことを示した。廣瀬・高良・金城・廣瀬(2006)は、入学後のモデルがある場合は社会志向的な仕事理由を挙げるものが多く、仕事の理由の形成に父親が影響を与えたとする割合が高いことを明らかにした。

他方、学生の実際的な就職活動に対する親の影響を検討した研究も多く、親との良好な関係と就職活動への高い評価との関係が明らかにされている。上村(2005)は文科系の大学4年生について、学生が就職活動状況を親に伝達する頻度が高い方が就職活動の量が多く、また内定を得ている率も高いことを明らかにした。また親の就職に対するアドバイスは就職活動全体への自己評価を高めるが、就職先を方向づけ自己の判断の余地を制限するような親の関わりは、むしろ自己評価を低める方向に作用していた。牛尾(2005)では、同じ対象者について、男女とも家族の中では就職についての相談相手として母親がもっとも選ばれるが、男子では父親も同程度に相談相手になっていること、就職状況の親への伝達頻度は男子より女子で高いこと、また男女共に親への伝達頻度が高いと就職活動の自己評価も高いことが明らかにされた。

以上のように、我が国では親から子どもへの職業や価値の継承、また就職活動に対する

キーワード：大学生、職業未決定、就活不安、親子関係、就職に対する親の態度

親のサポートに関する研究はなされているが、親子関係のあり方と子どもの職業意識との関係を扱った研究は少ない。しかし欧米では、親子関係のタイプやアタッチメントが青年期の子どもの職業意識、とくに職業未決定状態とどのように関連しているのかについての研究がなされている。

Lopes, E.G. & Andrew, S (1987) は、職業決定不能 (career indecisive) の大学生に対する臨床経験から、親と青年との過剰な相互関与やその他の家族パターンの機能不全が青年の個体化のプロセスを妨げ、決定不能をもたらしており、職業決定不能は、親子分離による家族不安を軽減し、家族システムの葛藤を回避し、自分と相容れない親の期待によるストレスから青年を守るという機能をもつ、と述べている。そして学生の決定、未決定、決定不能に関連するのは、家族のコミュニケーションパターンであるという。

その後親子のアタッチメントや家族関係と青年の職業意識との関連性が検討されてきた。Wolfe, J.B. & Betz, N.E. (2004) は、父親および母親に対するアタッチメントと職業決定自己効力感および職業へのコミットメントに対する恐怖との関連を大学生で検討した。ここでいうコミットメントに対する恐怖は職業決定不能を意味し、一度決定したら方針を変えられないのではないかと不安や最善の決定ができないのではないかと、コミットメントしてしまうことへの不安から、決定することができなくなっている状態をいう。検討の結果、母親に対するアタッチメントは女子学生でコミットメントに対する恐怖と負の関連性を示した。Lease, S.H. & Dahlbeck, D.T. (2011) は、大学生の職業決定自己効力感と親へのアタッチメントおよび養育態度との関連を検討した結果、女子では母親へのアタッチメントは自己効力感と正の関連を示したが、男子では有意な関連がみられず、また父親へのアタッチメントは男女と

も自己効力感との関連を示さなかった。

鹿内(2005)では、大学2～4年生を対象に、職業未決定状態と大学生が認知している親の態度との関連を検討した。その結果、父親についても母親についても親を望ましいモデルとして認知していることは学生の職業決定を促進し、職業決定回避傾向を弱めることが示された。しかし性別によって親の影響の仕方が異なる点もみられ、母親を望ましいモデルとみなすことは、女子に対しては職業決定を促すが、男子にとっては決定回避を強めることが示された。また父親の指示的態度は男子に対してのみ決定回避を強めるという結果も得られた。鹿内(2010)では、親子関係に加えて就職に対する親の態度と大学生の職業意識との関連を検討した。親との関係では、親からの圧力を強く認知すると職業未決定の状態が強くなるが、この関連性は父親より母親からの圧力において強かった。また父親との良好な関係が決定回避を弱めるが、母親との良好な関係は仕事不安を高めるという逆の関係がみられた。就職に対する親の態度の認知に関しては、支持的態度については父親だけで職業未決定を弱める効果がみられたが、逆に指示的態度の認知については母親だけで職業未決定を高める効果を示した。このように大学生の職業意識に及ぼす親の影響は父親と母親とで異なっていた。

父親および母親と青年の関係の様相やそれが青年の発達に及ぼす影響は青年自身の性別によって異なる。そこで本研究では、男子大学生と女子大学生別に、父親および母親との関係と就職に対する父親・母親のそれぞれの態度が、大学生の職業未決定にどのように関連しているのかを検討する。合わせて、就職活動に対する不安を取り上げる。本研究の調査対象者では2年生が占める割合が高く、就職活動はまだ差し迫った事柄ではないかもしれないが、大学生の就職状況がひじょうに厳しいことは世間でも話題になり、大学でも聞

かされているので、将来の就職活動への漠然とした不安は大きいと思われる。そこで、就職不安と親との関係および就職に対する親の態度の認知との関係も検討する。

Ⅱ 方法

1. 調査内容

質問紙の内容は以下の通りであった。

職業未決定尺度 現時点での将来の職業の決定状況を測るものとして、下山（1986）の職業未決定尺度32項目を用い、それぞれの項目内容が今の自分に当てはまる程度を5段階で評定させた。

就職についての親の態度の認知 就職あるいは就職活動について親がどう考えているかについて、鹿内（2010）の10項目を用いて、父親と母親別に5段階評定をさせた。

親との関係についての認知 鹿内（2007）で用いた親の態度尺度14項目について、父親と母親それぞれと自分との関係について、5段階評定を求めた。

就職活動についての不安 藤井（1999）の就職不安尺度を参考に、就職活動を開始するまでの不安に関して6項目、また開始から終結までの経過の中で感じるであろう不安に関して12項目、合計18項目で構成した。各項目について5段階評定させた。

その他、卒業後の希望進路、希望勤務地、および仕事や勤務先に備わってほしい事柄についても調査をしたが、今回の報告では扱わなかった。

2. 調査対象者

本学の学生、男子65名、女子144名、合計209名。ただし、無回答が多いケースは除き、また父親または母親に関する分析の際には、それぞれ父親または母親がいないケースを除いた。学年については、2年生154名、3年生36名、4年生19名であった。

Ⅲ 結果

3. 調査手続きと調査時期
2011年4月、「教育心理学」（2クラス）の授業時に、集団実施の質問紙法で行った。所要時間は約15分であった。

Ⅲ 結果

1. 各尺度の因子構造

職業未決定尺度

男女合わせたすべてのデータについて、因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行った結果、5因子が妥当だと判断された。

第1因子は、「就職できたとしても、就職先の期待に応えられるかどうか心配である」など、仕事遂行についての不安を示す項目に因子負荷量が高いとともに、「自分の能力ではやりたい職業に就けないのではないかと思う」、「自分に合わない職業に決めてしまうのではないかという不安がある」など職業決定に関する不安を示す項目に因子負荷量が高い。従って仕事遂行と仕事決定の両方の不安を含めて「仕事不安」因子と名付けた。

第2因子は、「自分のやりたい仕事は決まっており、今はそれを実現していく途中である」（逆転項目）など、まだ将来の職業が決められていない状態を示す項目で因子負荷量が高いので、「未決定」因子と名付けた。

第3因子は、「自分の将来の職業については、真剣に考えたことがない」、「できることなら職業などもたず、いつまでも好きなことをしていきたい」などに因子負荷量が高いので、考えるべき将来の職業について考えることを避けている傾向を示す因子として、「決定回避」因子とした。

第4因子は、「将来やってみたい職業がいくつもあり、それらについていろいろ考えている」などに因子負荷量が高く、将来を前向きに考えている姿勢から、「模索」因子と名付けた。

第5因子は、「生活が安定するならどのよ

うな職業でもよいと思う」,「自分を採用してくれる所なら,どのような職業でもよいと思っている」に因子負荷量が高いことから,「安直」因子と名付けた。

就活不安尺度

すべてのデータを用いて因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行ったところ,3因子が妥当だと判断された。第1因子は,「就活を実際にどのように行っていけばいいのかわからない」など,就活それ自体への不安を示すことから「就活不安」因子とした。第2因子は,「自己PRがうまくできないのではないか」など,自己PRや面接についての不安であることから「PR不安」因子と名付けた。第3因子は,「就活を途中で投げ出してしまうのではないかなど納得できる結果を得るまで頑張れるかどうかという不安を示すので,「継続不安」因子とした。

就職に対する親の態度尺度

男女合わせたすべてのデータについて,父親と母親別に因子分析(主因子法・バリマックス回転)をしたところ,ほぼ共通の3因子構造をなすと判断された。第1因子は,「アドバイスや相談にのってくれる」,「親と就職の話をよくする」,「やりたいようにやらせてくれる」で因子負荷量が高く,親がサポートしてくれるという認知を示すことから,「支持的態度」因子とした。第2因子は,「いろいろ指図すると思う」,「就いてほしい仕事があるようだ」,「公務員をすすめる」で構成されており,親の意向を子どもに伝えていることから,「指示的態度」因子とした。第3因子は,就職が決まらない場合は「フリーターでもやむを得ない」,「無理をしないで卒業後に探せばいい」という項目から,「未決定許容」因子とした。

親との関係尺度

男女合わせたデータについて,父親と母親別に因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行ったところ,共通の3因子が得られ

た。第1因子は,「仕事をしている姿を尊敬する」,「親の意見や考え方が,将来を考える時の参考になる」などが含まれ,親が社会人のモデルになっていることを示す内容であることから,「モデル」因子とした。第2因子は,「将来について話し合う」,「自分への期待を感じる」などで構成されており,親子間のコミュニケーションが取れていることから,「対話」因子とした。第3因子は,「将来のことについて指図をする」,「私の今の状態に不満をもっている」などで因子負荷量が高く,「圧力」因子と名付けた。

2. 未決定尺度および就活不安尺度の性差

職業未決定尺度の5つの下位尺度および就活不安尺度の3つの下位尺度のそれぞれについて,各下位尺度に属する項目の評定値の平均値を下位尺度得点とした。各下位尺度について,独立したサンプルの t 検定によって性差を検討したところ,職業未決定尺度の「仕事不安」と「未決定」,また就活不安尺度の「就活不安」と「PR不安」で有意な性差がみられ,いずれについても男子より女子で未決定状態が高く,就活不安も高い。

3. 就職に対する親の態度の認知と職業未決定および就活不安との関連

就職に対する親の態度の2つの下位尺度のそれぞれについて,それに属する項目の評定値の平均値を下位尺度得点とした。男女ごとに,父親と母親それぞれについて,就職に対する親の「指示的態度」および「支持的態度」の各得点によって人数がほぼ1/3ずつになるように,低群,中群,高群の3群に分割した。それぞれの3群を独立変数,職業未決定の5つの下位尺度得点および就活不安の3つの下位尺度得点を従属変数とする,1要因3水準の分散分析を行った。表1が父親についての結果であり,表2が母親の結果である。なお就職に対する親の態度の「未決定許容」につ

いては、父親、母親ともに得点が低く、3群に分ける意味がなかったため、この分析では省いた。

父親の結果を表1でみると、父親の「指示的態度」は男子の職業未決定および就活不安のどの下位尺度でも有意な効果を示していない。しかし女子の「仕事不安」、「未決定」、「決定回避」で有意な効果を示し、いずれについても父親の「指示的態度」を強く認知している群で得点が高くなっている。父親の「支持的態度」については、男子の「決定回避」と「継続不安」で有意な効果がみられ、父親の支持を高く認知している群で低群よりも「決定回避」も「継続不安」も低い。「未決定」でも同様の傾向 ($p < .10$) がみられた。女子では「継続不安」だけで有意な効果がみられ、男子と同様に父親の「支持的態度」を強く認知

している群で低群よりも「継続不安」が低い。

次に母親の就職に対する態度の効果を表2でみると、「指示的態度」については、男子の「未決定」で有意な効果がみられ、母親の「指示的態度」を強く認知する群よりも低く認知している群で「未決定」が高い。他の下位尺度では有意な効果は得られなかった。母親の「指示的態度」と女子の下位尺度の関連をみると、「仕事不安」、「模索」で有意な効果がみられ、低群より高群でいずれの下位尺度得点も高い。「未決定」および「決定回避」でも同様の傾向 ($p < .10$) がみられた。母親の「支持的態度」については、男子の「未決定」、「決定回避」、「就活不安」、「PR不安」、「継続不安」で有意な効果が得られ、高群よりも低群で「未決定」、「決定回避」が高く、就活不安の3尺度も高い。しかし女子については

表1 就職に対する父親の態度と職業未決定および就活不安との関連

		男子						女子						
		指示的態度			支持的態度			指示的態度			支持的態度			
		低群	中群	高群	低群	中群	高群	低群	中群	高群	低群	中群	高群	
職業未決定尺度	仕事不安	n	20	17	22	21	17	21	48	42	34	33	49	42
		平均值	2.85	3.14	3.34	3.13	3.24	3.01	3.26	3.49	3.90	3.67	3.58	3.31
		SD	0.88	1.04	0.89	0.84	0.78	1.16	0.88	0.78	0.59	0.73	0.85	0.81
		F値	1.48 (2/56)			0.27 (2/56)			6.66** (2/121)			2.05 (2/121)		
	未決定	平均值	3.21	3.04	2.61	3.21	3.15	2.50	3.06	3.34	3.61	3.50	3.40	3.04
		SD	1.18	1.17	0.91	1.07	1.06	1.06	1.01	1.06	0.91	0.87	1.10	0.98
		F値	1.69 (2/56)			2.78 (2/56)			3.09* (2/121)			2.25 (2/121)		
	決定回避	平均值	2.54	2.01	2.04	2.52	2.26	1.83	1.87	2.08	2.44	2.13	2.21	1.94
		SD	1.04	0.77	0.85	0.84	0.84	0.95	0.72	0.86	0.81	0.90	0.88	0.66
		F値	2.19 (2/56)			3.20* (2/56)			5.24** (2/121)			1.31 (2/121)		
	模索	平均值	3.15	2.90	3.14	3.19	2.92	3.08	3.06	3.06	3.44	3.24	3.17	3.09
		SD	1.03	0.95	0.82	0.88	1.04	0.90	1.07	1.03	0.85	0.89	1.14	0.96
F値		0.40 (2/56)			0.39 (2/56)			1.83 (2/121)			0.22 (2/121)			
安置	平均值	2.28	2.76	2.43	2.60	2.38	2.43	2.44	2.45	2.60	2.56	2.45	2.48	
	SD	0.98	1.02	0.99	0.90	1.01	1.11	0.99	1.23	0.83	1.01	1.07	1.04	
	F値	1.15 (2/56)			0.24 (2/56)			0.29 (2/121)			0.12 (2/121)			
就活不安尺度	就活不安	平均值	3.38	3.44	3.53	3.70	3.59	3.10	3.87	3.91	4.12	4.09	3.95	3.85
		SD	0.85	1.27	1.15	0.78	1.00	1.33	0.90	0.64	0.74	0.63	0.83	0.82
		F値	0.11 (2/56)			1.90 (2/56)			1.16 (2/121)			0.86 (2/121)		
	PR不安	平均值	3.10	3.11	3.39	3.39	3.34	2.93	3.69	3.94	3.98	3.97	3.84	3.78
		SD	1.14	1.23	0.92	0.81	1.13	1.27	1.04	0.75	0.80	0.75	1.03	0.81
		F値	0.49 (2/56)			1.13 (2/56)			1.41 (2/121)			0.45 (2/121)		
	継続不安	平均值	2.70	2.68	2.57	2.87	2.85	2.25	2.57	2.85	2.93	2.96	2.85	2.51
		SD	0.93	0.88	0.74	0.67	0.79	0.90	0.79	0.75	0.92	0.94	0.81	0.68
		F値	0.14 (2/56)			4.07* (2/56)			2.39 (2/121)			3.44* (2/121)		

() 内は自由度 * : $p < .05$, ** : $p < .01$

表2 就職に対する母親の態度と職業未決定および就活不安との関連

		男子						女子						
		指示的態度			支持的態度			指示的態度			支持的態度			
		低群	中群	高群	低群	中群	高群	低群	中群	高群	低群	中群	高群	
	n	20	17	22	21	17	21	48	42	34	33	49	42	
職業未決定尺度	仕事不安	平均値	2.98	3.32	3.20	3.45	3.24	2.82	3.23	3.49	3.79	3.57	3.50	3.44
		SD	0.86	0.92	1.06	0.66	0.99	1.02	1.01	0.77	0.64	0.84	0.81	0.91
		F値	0.70 (2/59)			2.14 (2/59)			5.22** (2/135)			0.22 (2/135)		
	未決定	平均値	3.51	2.87	2.56	3.30	3.19	2.32	3.10	3.31	3.58	3.43	3.44	3.10
		SD	1.13	1.13	0.86	1.00	1.05	1.11	1.07	1.09	0.82	1.00	1.03	1.01
		F値	3.73* (2/59)			4.68* (2/59)			2.57 (2/135)			1.68 (2/135)		
	決定回避	平均値	2.39	2.29	1.92	2.52	2.43	1.59	1.91	2.12	2.31	2.32	2.12	1.92
		SD	1.01	0.93	0.72	0.75	0.98	0.65	0.84	0.83	0.75	0.94	0.83	0.65
		F値	1.32 (2/59)			6.85** (2/59)			2.86 (2/135)			2.49 (2/135)		
	模索	平均値	3.19	2.89	3.04	3.15	2.84	3.18	2.88	3.01	3.49	3.23	3.09	3.05
		SD	0.94	0.93	0.91	0.88	0.85	1.08	1.09	0.93	0.91	0.88	1.06	1.06
		F値	0.60 (2/59)			0.93 (2/59)			4.75** (2/135)			0.33 (2/135)		
安直	平均値	2.39	2.78	2.19	2.67	2.63	2.15	2.44	2.70	2.57	2.57	2.70	2.39	
	SD	0.99	0.99	1.03	1.10	0.97	0.98	1.06	1.22	0.95	1.15	1.13	0.94	
	F値	1.91 (2/59)			1.50 (2/59)			0.67 (2/135)			1.06 (2/135)			
就活不安尺度	就活不安	平均値	3.47	3.68	3.27	3.64	3.75	2.97	3.93	3.91	4.04	4.05	3.95	3.90
		SD	1.01	0.99	1.27	0.78	1.04	1.23	0.90	0.77	0.70	0.72	0.81	0.84
		F値	0.75 (2/59)			3.18* (2/59)			0.35 (2/135)			0.35 (2/135)		
	PR不安	平均値	3.13	3.48	3.20	3.78	3.31	2.78	3.60	4.01	3.92	3.92	3.77	3.87
		SD	1.24	0.89	1.09	0.82	0.98	1.19	1.08	0.75	0.84	0.84	0.99	0.88
		F値	0.71 (2/59)			4.31* (2/59)			2.66 (2/135)			0.34 (2/135)		
	継続不安	平均値	2.67	2.62	2.80	2.93	2.96	1.97	2.58	2.83	2.90	2.93	2.82	2.57
		SD	1.02	0.73	0.74	0.57	0.68	0.86	0.81	0.75	0.87	0.87	0.81	0.76
		F値	0.24 (2/59)			11.84*** (2/59)			1.99 (2/135)			2.25 (2/135)		

()内は自由度 * : p<.05, ** : p<.01, *** : p<.001

どの下位尺度でも母親の「支持的態度」は有意な効果をもたなかった。

4. 親との関係の認知と職業未決定および就活不安との関連

親との関係の3つの下位尺度について、それぞれに含まれる項目の評定値の平均値を下位尺度得点とした。男女ごとに、父親と母親それぞれについて、親との関係の認知の「モデル」, 「対話」, 「圧力」の各得点によって人数がほぼ1/3ずつになるように、低群, 中群, 高群の3群に分割した。それぞれの3群を独立変数, 職業未決定の5つの下位尺度得点および就活不安の3つの下位尺度得点を従属変数とする, 1要因3水準の分散分析を行った。表3が父親についての結果であり, 表4が母親の結果である。

表3によって父親との関係の認知の効果をみると, 「モデル」の効果が「未決定」, 「決定回避」, 「就活不安」および「継続不安」で有意である。「未決定」と「就活不安」については中群より高群で得点が低く, 「決定回避」と「継続不安」では低群より高群で得点が低い。しかし女子では父親の「モデル」の効果はどの下位尺度でも有意でなく, 「決定回避」で有意な傾向 (p<.10) が得られただけである。父親との「対話」については, 男子では「未決定」, 「決定回避」, 「継続不安」で有意な効果がみられ, いずれについても低群より高群で得点がありに低い。女子では父親の「対話」の効果は「PR不安」でのみ有意となり, 中群より高群で有意に低い得点である。父親の「圧力」の効果は男子ではどの下位尺度でも有意ではなかった。しかし女子

表3 父親との関係の認知と職業未決定および就活不安との関連

		男子									女子									
		モデル			対話			圧力			モデル			対話			圧力			
		低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	
		n	19	19	21	20	23	16	20	20	19	37	39	48	34	46	44	44	38	42
職業未決定尺度	仕事不安	平均値	3.21	3.36	2.81	3.10	3.30	2.86	2.94	3.22	3.19	3.59	3.45	3.51	3.56	3.63	3.36	3.10	3.48	3.97
		SD	0.93	0.77	1.04	0.87	0.88	1.10	1.01	0.92	0.92	0.70	0.88	0.86	0.95	0.76	0.75	0.88	0.74	0.52
		F値	1.95 (2/56)			1.06 (2/56)			0.54 (2/56)			0.28 (2/121)			1.32 (2/121)			15.32*** (2/121)		
	未決定	平均値	3.21	3.24	2.42	3.23	3.10	2.33	2.65	3.28	2.88	3.34	3.41	3.19	3.54	3.40	3.02	2.94	3.17	3.81
		SD	1.16	0.96	1.00	1.24	0.96	0.90	1.35	1.00	0.81	1.00	1.08	0.99	0.93	0.93	1.12	1.01	0.90	0.93
		F値	4.02* (2/56)			3.75* (2/56)			1.76 (2/56)			0.53 (2/121)			2.93 (2/121)			9.34*** (2/121)		
	決定回避	平均値	2.61	2.31	1.74	2.64	2.18	1.68	2.20	2.28	2.12	2.23	2.22	1.89	2.28	2.05	2.00	1.78	2.01	2.50
		SD	0.98	0.79	0.79	0.94	0.76	0.85	0.91	0.98	0.89	0.81	0.93	0.70	1.00	0.75	0.73	0.58	0.69	0.97
		F値	5.36** (2/56)			5.75** (2/56)			0.13 (2/56)			2.53 (2/121)			1.23 (2/121)			9.95*** (2/121)		
	模索	平均値	3.12	3.19	2.92	2.93	3.29	2.94	3.02	3.25	2.95	3.13	3.12	3.22	3.21	3.16	3.13	3.02	3.32	3.17
		SD	0.78	0.96	1.03	0.94	0.94	0.87	1.06	0.88	0.83	1.11	1.01	0.94	1.15	0.89	1.03	1.12	0.95	0.94
		F値	0.46 (2/56)			1.03 (2/56)			0.57 (2/56)			0.14 (2/121)			0.05 (2/121)			0.95 (2/121)		
安直	平均値	2.61	2.42	2.40	2.55	2.41	2.47	2.48	2.40	2.55	2.30	2.65	2.50	2.50	2.62	2.34	2.44	2.32	2.69	
	SD	0.98	0.75	1.22	0.99	0.93	1.16	0.95	0.90	1.18	0.94	1.16	1.00	1.05	1.07	1.00	1.08	0.98	1.02	
	F値	0.24 (2/56)			0.10 (2/56)			0.11 (2/56)			1.13 (2/121)			0.81 (2/121)			1.37 (2/121)			
就活不安尺度	就活不安	平均値	3.68	3.82	2.92	3.65	3.48	3.16	3.33	3.52	3.51	4.00	3.89	3.97	3.87	4.10	3.86	3.66	3.95	4.26
		SD	0.79	1.02	1.19	0.94	1.04	1.29	1.16	0.96	1.15	0.72	0.84	0.78	0.90	0.67	0.78	0.91	0.63	0.65
		F値	4.58* (2/56)			0.93 (2/56)			0.20 (2/56)			0.23 (2/121)			1.27 (2/121)			6.76** (2/121)		
	PR不安	平均値	3.41	3.39	2.87	3.41	3.26	2.90	3.05	3.38	3.20	3.91	3.84	3.83	3.80	4.11	3.64	3.62	3.82	4.14
		SD	0.89	1.15	1.15	1.01	1.10	1.15	1.22	0.98	1.06	0.84	0.85	0.96	1.10	0.68	0.85	0.97	0.87	0.73
		F値	1.63 (2/56)			1.03 (2/56)			0.47 (2/56)			0.11 (2/121)			3.48* (2/121)			4.01* (2/121)		
	継続不安	平均値	3.04	2.53	2.39	3.03	2.63	2.18	2.43	2.73	2.78	2.93	2.84	2.57	2.89	2.87	2.56	2.53	2.65	3.11
		SD	0.61	0.96	0.79	0.79	0.72	0.85	0.95	0.90	0.60	0.93	0.80	0.72	1.01	0.80	0.64	0.66	0.76	0.93
		F値	3.60* (2/56)			5.19** (2/56)			0.97 (2/56)			2.29 (2/121)			2.22 (2/121)			6.23** (2/121)		

()内は自由度 * : p<.05, ** : p<.01, *** : p<.001

では「仕事不安」,「未決定」,「決定回避」,「就活不安」,「PR不安」,「継続不安」の6尺度で有意となり、いずれについても高群の得点が他の群より有意に高い。

次に母親との関係の認知の効果を表4でみると、母親の「モデル」は男子の「未決定」,「決定回避」,「就活不安」で有意な効果を示し、いずれでも高群の得点が他の群より低い。女子については母親の「モデル」は「決定回避」のみで有意な効果を持ち、男子と同様に低群より高群で「決定回避」得点が低い。母親との「対話」については、男子では「未決定」のみで有意な効果を示し、低群より高群の「未決定」得点が低かった。女子では「仕事不安」,「未決定」,「決定回避」,「PR不安」,「継続不安」で母親の「対話」の効果が有意であった。「PR不安」では多重比較での有意差はなかつ

たが、他の4つの下位尺度ではいずれも低群より高群で得点が低かった。最後に母親の「圧力」については、男子ではどの下位尺度でも有意な効果がみられなかった。しかし女子では「模索」を除く7つの下位尺度で強い効果がみられた。どの群間の差が有意であるかは下位尺度によって異なっているが、いずれも低群で下位尺度得点は低く、高群で高いというパターンとなっている。

IV 考察

親との関係および親の態度と職業意識との関連における性差

就職に対する親の態度の認知に関して、父親の支持的態度は男女とも職業未決定および就活不安と弱い関連性しか示さなかったが、

表 4 母親との関係の認知と職業未決定および就活不安との関連

		男子									女子									
		モデル			対話			圧力			モデル			対話			圧力			
		低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	低	中	高	
		n	17	25	20	20	25	17	18	25	19	46	57	35	41	59	38	42	62	34
職業未決定尺度	仕事不安	平均値	3.11	3.51	2.84	3.20	3.26	3.04	3.00	3.17	3.37	3.57	3.41	3.54	3.67	3.58	3.18	3.03	3.60	3.89
		SD	0.85	0.85	1.01	0.81	0.85	1.20	0.92	0.84	1.08	0.83	0.82	0.93	0.90	0.75	0.87	0.94	0.74	0.64
		F値	3.07 (2/59)			0.28 (2/59)			0.74 (2/59)			0.49 (2/135)			3.86* (2/135)			12.37*** (2/135)		
	未決定	平均値	3.19	3.49	2.18	3.25	3.19	2.38	2.88	3.19	2.81	3.57	3.20	3.20	3.66	3.31	2.99	2.85	3.39	3.78
		SD	1.10	0.89	0.96	1.09	0.97	1.17	1.49	0.88	0.98	1.04	0.94	1.07	0.96	1.01	1.01	1.08	0.97	0.78
		F値	10.52*** (2/59)			3.83* (2/59)			0.74 (2/59)			1.97 (2/135)			4.47* (2/135)			9.16*** (2/135)		
	決定回避	平均値	2.51	2.40	1.77	2.50	2.30	1.79	2.26	2.27	2.13	2.32	2.09	1.85	2.35	2.09	1.88	1.81	2.05	2.59
		SD	0.85	0.93	0.81	0.98	0.78	0.91	1.02	0.86	0.93	0.97	0.69	0.74	0.95	0.76	0.69	0.61	0.74	0.97
		F値	4.20* (2/59)			3.08 (2/59)			0.14 (2/59)			3.32* (2/135)			3.48* (2/135)			9.98*** (2/135)		
	模索	平均値	3.00	3.28	2.72	3.05	3.05	2.94	2.94	3.09	3.00	2.99	3.21	3.13	3.02	3.03	3.35	2.89	3.26	3.13
		SD	0.75	0.88	1.05	1.00	0.91	0.91	1.04	0.90	0.89	1.05	0.97	1.03	0.98	0.98	1.06	1.12	0.95	0.95
		F値	2.14 (2/59)			0.09 (2/59)			0.14 (2/59)			0.57 (2/135)			1.44 (2/135)			1.73 (2/135)		
安置	平均値	2.85	2.42	2.33	2.68	2.42	2.44	2.42	2.56	2.53	2.66	2.51	2.53	2.66	2.60	2.41	2.46	2.34	3.10	
	SD	1.04	0.86	1.15	1.04	0.99	1.07	0.93	0.89	1.27	1.14	1.11	0.96	1.16	1.02	1.08	1.11	0.95	1.11	
	F値	1.41 (2/59)			0.39 (2/59)			0.11 (2/59)			0.28 (2/135)			0.59 (2/135)			6.22** (2/135)			
就活不安尺度	就活不安	平均値	3.63	3.85	2.97	3.50	3.70	3.24	3.31	3.69	3.46	3.96	3.97	3.95	4.01	4.05	3.77	3.66	4.06	4.14
		SD	0.87	0.95	1.19	0.95	0.99	1.29	1.18	0.84	1.23	0.87	0.67	0.89	0.86	0.69	0.86	0.94	0.65	0.76
		F値	4.37* (2/59)			0.95 (2/59)			0.67 (2/59)			0.01 (2/135)			1.52 (2/135)			4.55* (2/135)		
	PR不安	平均値	3.49	3.36	3.07	3.47	3.39	2.98	3.10	3.49	3.24	3.86	3.87	3.78	4.00	3.93	3.53	3.54	3.87	4.16
		SD	0.97	1.10	1.08	0.95	1.03	1.18	1.14	0.90	1.16	0.96	0.79	1.07	0.99	0.88	0.83	1.03	0.87	0.74
		F値	0.80 (2/59)			1.12 (2/59)			0.77 (2/59)			0.12 (2/135)			3.19* (2/135)			4.61* (2/135)		
	継続不安	平均値	2.91	2.77	2.37	2.95	2.68	2.36	2.36	2.80	2.83	2.94	2.77	2.54	2.99	2.83	2.44	2.47	2.72	3.22
		SD	0.65	0.90	0.80	0.78	0.68	0.98	1.02	0.71	0.70	0.94	0.68	0.82	0.92	0.77	0.68	0.67	0.76	0.90
		F値	2.33 (2/59)			2.45 (2/59)			2.04 (2/59)			2.48 (2/135)			4.94** (2/135)			9.03*** (2/135)		

() 内は自由度 * : p<.05, ** : p<.01, *** : p<.001

母親の支持的態度は、男子においてのみ、未決定、決定回避の低さおよび就活不安の3つの下位尺度のすべての低さと関連していた。指示的態度については、男子では父親も母親もほとんど関連性がみられなかったが、女子ではどちらの親の指示的態度も未決定の強さと関連していた。

同様の結果が親との関係についてもみられた。親を高く評価し自分のモデルとみなす「モデル」については、父親でも母親でもその傾向が強いことが男子の職業未決定および就活不安の低さと関連していたが、女子においては、母親をモデルとみなす傾向が決定回避の低さと結びついていただけで、父親についてはどの下位尺度でも関連はみられなかった。他方、親の指図や親の自分に対する不満を感じる「圧力」については、父親でも母親でも

男子ではどの下位尺度でも関連性がみられなかったが、女子については職業未決定および就活不安との強い関連性がみられた。

親からの指示的態度や圧力が女子だけで職業未決定の高いことと関連したのはなぜだろうか。指示的態度は親が自分に望む職業をもつという認知、また指図をする傾向であり、「圧力」は親の指図に加えて自分に対する不満の認知や親の期待に応えられない不安であることを考えると、Lopes, E.G. & Andrew, S. (1987) による、職業決定不能が自分と相容れない親の期待から自分を守る機能をもつという主張と斉合する結果である。男子より女子で「仕事不安」、「未決定」、「就活不安」、「PR不安」が有意に高く、女子のほうが将来の職業や就職活動について不安定で低い自己評価をもつが、そのような状態のところ親から

の方向づけや自分への不満、過剰な期待が認知されるとより不安定で低い自己効力感につながると考えられる。

他方、親の支持的態度やモデルについては、男子だけで未決定の低さや就職不安の低さと関連していたことについては、次のように考えられる。親の望ましい態度および関係を示す「支持的態度」、「モデル」、「対話」の3つの下位尺度間の相関をみると、父親について、男子では支持的態度はモデルとの相関が.634、会話とは.696、モデルと対話の相関は.640であるが、女子ではそれぞれ.518、.605、.451である。母親については、男子では支持的態度はモデルと.618、対話と.521、モデルと対話では.629となっているのに対し、女子ではそれぞれ.483、.319、.281であった。どちらの親についても望ましい親の態度の認知は女子より男子で一貫性が高くなっており、とくに女子の母親についての認知の一貫性は低い。男子の親との望ましい関係の認知はいくつかの側面で一貫した確かなものであるため、その好ましさを程度が、男子の職業への構えに関連したのであろう。女子ではとくに母親について対話の程度が必ずしもモデルや支持的態度の認知の高さを伴うものではなく、支持的態度の認知とモデルとしての認知との相関もそれほど高くないことを考えると、親の態度のある側面での望ましさを認知が直ちに職業への構えに結びつかないと考えられる。

また男子で、父親の支持的態度の認知は就活不安およびPR不安には有意な効果をもたなかったが、母親からの支持的態度の認知の高さがすべての就活不安の低さと関連していた。男子にとっても父親より母親が身近な存在であり、実際の就活の状況では身近な大人からのサポートが不安を低める要因になるので、母親の支持的態度の認知が重要になるのであろう。牛尾（2005）では、4年生の実際の就職活動において男子は母親と同程度に

父親も相談相手になっていた。本研究では調査対象者が主として2年生だったので、就職活動がまだ先のことであり、父親が身近な相談相手として認知されていなかったと思われる。

親との関係の「対話」と職業意識との関連

母親との関係の「モデル」は女子の職業未決定と就活不安にほとんど関連していなかったが、「対話」の多さは職業未決定および就活不安の低さと関連しており、また同様の関連が男子の父親との「対話」でもみられた。それに対し異性の親との「対話」は職業意識とほとんど関連していなかった。「対話」は将来のことを話し合ったり、親が自分の仕事のことを話題にしたり、親の期待を感じたりすることを示していることから、対話の多さは将来のことを考える機会となり、また親の生き方や仕事についての情報を得る機会にもなる。異性の親よりも同性の親との対話のほうが自分の生き方へのアドバイスや情報を得られやすいと考えられる。

男子の職業意識に関連する就職に対する父親の態度と父親との関係

父親の就職に対する態度よりも父親との関係の「モデル」と「対話」が、男子の職業未決定にも就活不安にもより強く関連していた。職業は青年期のアイデンティティの確立のためのもっとも重要な柱である。父親はもっとも身近な職業人であるから、父親の姿を通して働くことの意味を学ぶことが多い。この時父親が誇りをもって働いているとみなされ、尊敬できる「モデル」になっていれば、また子どもとの対話を通してさまざまな情報やアドバイスを与えれば、子どもは働くことに意義を見出し、社会での自分の役割を認識するだろう。それが職業未決定だけでなく、就活不安の低さに関連すると考えられる。また、本研究では就職活動をまだ先のことと受け止めていると思われる2年生が多かったが、就職活動中や終了後の学生を対象にした

ら、就職に対する親の態度の効果が明確にみられたかもしれない。

尾奈緒美・永野仁・木谷光宏 大学生の就職活動に関する調査研究 第2章 明治大学社会科学研究所紀要, 44, 103-116.

Wolfe, J.B. & Betz, N.E. (2004) . The relationship of attachment variables to career decision-making self-efficacy and fear of commitment. *The Career Development Quarterly*, 52, 363-369.

引用文献

藤井義久 (1999). 女子学生における就職不安に関する研究 心理学研究, 70, 417-420.

廣瀬等・高良美樹・金城亮・廣瀬真喜子 (2006). 短期大学生の進路に関する研究－働く人のモデルの有無が進路に及ぼす影響－ 琉球大学教育学部紀要, 68, 191-204.

上村和申 (2006). 大学生の就職活動における両親の影響に関する一考察 政治学研究論集 (明治大学), 21, 35-54.

北原佳代・佐々木美樹・岡部恵子 (2005). 職業選択に対する学生の考え方と親への相談状況との関係－新入生を対象にして－ *Bulletin Tsukuba International Junior College*, 33, 121-139.

Lease, S.H. & Dahlbeck, D.T. (2011) . Parental influences, career decision-making attributions, and self-efficacy. *Journal of Career Development*, 36, 95-113.

Lopez, F.G. & Andrews, S. (1987) . Career indecision: A family systems perspective. *Journal of Counseling and Development*, 65, 304-307.

鹿内啓子 (2005). 大学生の職業決定に関わる親の態度認知と職業人イメージの要因 北星学園大学文学部北星論集, 42, 69-88.

鹿内啓子 (2007). 大学生の職業選択に対する職業意識と親の影響との関連性 北星学園大学文学部北星論集, 44, 1-11.

鹿内啓子 (2010). 大学生における親の就職への態度および親との関係と職業意識との関連 北星学園大学文学部北星論集, 47, 1-12.

下山晴彦 (1986). 大学生の職業未決定の研究 教育心理学研究, 34, 20-30.

高井直美 (2001). 大学生における親の価値の継承 京都ノートルダム女子大学研究紀要, 31, 147-156.

田中宏二・小川一夫 (1985). 職業選択に及ぼす親の職業的影響－少・中学校教諭・大学教師・建築設計士について－ 教育心理学研究, 33, 75-80.

牛尾奈緒美 (2005). 大学生の就職活動と親子関係：ジェンダーを視点として 根本孝・牛

[Abstract]

A Study of Parent-Adolescent Relationships and Parents' Attitudes toward Job Hunting Related to Career Indecision and Job Hunting Anxiety of College Students

Keiko SHIKANAI

This study investigates how attitudes of parents to their child's job hunting and parent-adolescent relationships relate to the career indecision and job hunting anxiety of college students. A questionnaire was administered to 209 college students. The questionnaire was composed of a career indecision scale, job hunting anxiety scale, attitudes of parents to job hunting scale, and parent-adolescent relationship scale. Male students who expect much mental support from their parents for job hunting had high orientation toward working and low anxiety for job hunting. Similar results were obtained for male students who respect their parents as working adults. But expectation for mental support from their parents was not related to orientation toward working and job hunting anxiety for female students. On the other hand, female students who feel exaggerated expectations and directions from their parents had low orientation toward working and much anxiety for job hunting. Female students have lower self-efficacy for job hunting than male students. Therefore, exaggerated expectations and directions cause more decline of self-efficacy.

Key words : College Students, Career Indecision, Job-Hunting Anxiety,
Parent-Adolescent Relationship, Attitudes of Parent toward Job-Hunting